

令和 6 年度地域活性化伝道師派遣状況

令和 7 年 3 月 31 日
地方創生推進事務局

令和 6 年度は、4 地域に対し、以下の 4 名の地域活性化伝道師を派遣した。

※「所属」は令和 7 年 3 月 31 日現在のもの。

No.	派遣先・相談主体	伝道師名	所属／肩書
1	東京都瑞穂町	高木 超	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科／特任助教
2	長崎県対馬振興局	河合 祥太	GOODGOOD 株式会社／取締役／COO
3	北海道釧路町	木田 悟	一般財団法人日本スポーツコミッション／代表理事
4	北海道室蘭市	井上 俊彦	合同会社ブランドスケープ／代表

※地域活性化伝道師の詳細なプロフィールは、当推進事務局のホームページをご参照ください。

地方創生推進事務局＞施策＞地域活性化伝道師

<https://www.chisou.go.jp/tiiki/dendoushi/index.html>

実施報告書

地方公共団体名	瑞穂町	派遣伝道師氏名	高木 超
依頼内容	本町では、第5次瑞穂町長期総合計画に将来都市像を掲げ、持続可能な町政運営を図るとともに、魅力ある地域社会の形成に向けて各種施策に取り込んでいる。計画期間は令和7年度で前期5年間で終了することから、後期基本計画策定に向けて、令和6年度から改訂に向けた準備を進めている。現在、庁内ではSDGsのターゲットマークを用いて庁議資料等に記載し、また、計画策定の手順では新たな計画書が策定された場合には、計画書内に関連するSDGsターゲットマークを掲げ、SDGsに関する職員の意欲向上も図られているところである。 そこで、内閣府の地域活性化伝道師派遣制度を活用し、SDGsのスペシャリストであり、内閣府の地域活性化伝道師でもある高木 超氏に講師を依頼し、職員の更なるSDGsへの理解促進を図るとともに、町の長期総合計画とSDGsの関連性を再検証し、後期基本計画に反映したい。		
依頼に対する活動内容	日 時：令和6年6月21日（金）午後1時30分～午後3時 研修名：令和6年度 職員向けSDGs研修会「SDGsと長期総合計画」 ～第5次瑞穂町長期総合計画 後期基本計画策定に向けて～ 講 師：慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科/特任助教 高木 超 内容：第5次瑞穂町長期総合計画 後期基本計画策定に向けて「行政実務におけるSDGsの活用」の研修テーマで「SDGsの現状」や「行政計画におけるSDGs」について、講師が発表している研究論文や講師の持つ知識を用いて講演していただき、職員のSDGsに対する理解を深めていただいた。また、SDGsをより実践的に考えていただくために、2人1組で互いの担当する事務事業からSDGsを考えるワークショップを行った。 参加人数：53名		
成果	・ワークショップで担当する事務事業をSDGsのターゲットに照らし合わせ、考えることができた。 ・今後の計画でも職員がSDGsの視点から施策を考える一助となった。 ・長期総合計画の施策分野ごとにSDGsのマークを位置付けてはいたが、事務事業を見直すためのツールとして使うことや、普段からSDGsの視点（シナジーが起きているか）で見ることの重要性に気づくことができた。 ・違う担当の課や係の人とグループワークを行うことで、より一層掘り下げて施策を考えることができた。 ・研修会後のアンケートから、職員のSDGsの理解度が5段階中4. 29と高い評価であった。		
課題	・研修会後のアンケートから、職場での活用については5段階中3. 63と中間値であった。 ・SDGsへの理解度は高まったが、実際の取り組みやその結果を考えたときに、難しさを感ずる職員もいた。 ・それぞれの施策でシナジーを生み出すことやトレードオフを考慮することなどワークショップも行ったが、考えるトレーニングがもう少し必要であったとの声もあった。		
今後の方針	今回の研修会を踏まえ、引き続き職員へのSDGsへの理解促進を図る。第5次瑞穂町長期総合計画後期基本計画でも引き続きSDGsの視点を入れていくことや、今後の各種計画でも研修を受けた職員がSDGsを意識して計画を策定・遂行できるようサポートする。		

実施報告書

地方公共団体名	長崎県（対馬振興局）	派遣伝道師氏名	河合 祥太
依頼内容	長崎県対馬市では、従来から多くのシカやイノシシが生息しており、それらによる食害被害が深刻化している。被害低減や資源の有効活用的手段として、捕獲したシカやイノシシのジビエとしての活用を既に島内で取り組んでいる事業者はいるものの、その活用方法、販路、流通、ブランディング等にはまだ課題がある。 そこで地域活性化伝道師である河合氏に、対馬の事業者にお会いしていただき、自身のこれまでの取組やノウハウを直接お話頂くことで、対馬における今後の取組やブラッシュアップにつながるよう意見交換会を依頼した。		
依頼に対する活動内容	令和6年10月29日に実際に対馬へ来島いただき、2時間以上にわたって島の事業者と意見交換を行っていただいた。島内から参加した事業者はこれまでにジビエを販売したことのある事業者から、これからジビエを活用した事業に取り組んでみたいという事業者であり、幅広い方に参加頂き、ジビエ活用の現状や今後の可能性について河合氏からお話し頂いた。 また、市役所の関係部門、県の物販戦略のパートナーである一般社団法人離島振興地方創生協会にも同席頂き、有害鳥獣対策の現状や、ジビエ活用の流通の可能性等に関しても幅広く議論することができた。		
成果	地域活性化伝道師である河合氏と島内事業者の継続的な関係性を構築することができた。また、今後具体的にどのような形（役割等）で関わって頂くことができるのかは検討が必要であるものの、対馬の有害鳥獣対策に向けたジビエ活用の意見交換を今後も引き続き行っていく方向性で調整をおこなっている。（11月末時点）		
課題	有害鳥獣対策の必要性や、ジビエを活用することに可能性を感じている島内事業者がいることは再認識できたものの、出口戦略となる販路や取引価格等が明確でないことが実際に事業化するための課題となっている。関係機関と連携し、出口戦略を示していくことで新たにジビエ活用に取り組んでみたいという事業者の後押しをすることができるよう取り組む必要がある。		
今後の方針	12月以降、河合氏や先の一般社団法人離島振興地方創生協会等と連携し、ジビエ活用に向けた事業者との意見交換をWEB会議を活用し実施する方向で調整している。それで終わるのではなく、具体的な成果につながるよう継続的に河合氏には助言等頂きたいと考えている。		

実施報告書

地方公共団体名	釧路町	派遣伝道師氏名	木田 悟
依頼内容	(1)地域のリーダーの育成 取組の立ち上がり段階における実行プランの企画、実施体制の構築を後押しするもの。 『スポーツを活用したまちづくり事業の創出』 釧路町のスポーツを活用したまちづくりとして実施する新たな事業の創出・実施に向けての助言。地域活性化伝道師による講演を受けて、現地の調査、関係団体との意見交換(地域課題の把握)、スポーツ関係団体の活性化・機運醸成に向けた活動。		
依頼に対する活動内容	これまで合宿誘致活動、トップアスリートを招いてのスポーツ教室等を開催してきたが、関係者だけの事業であり、対象者が限られていることで、スポーツの可能性を活かしきれていないことや、釧路湿原をはじめとした釧路町の魅力との融合がされていない課題があった。それを踏まえ地域活性化伝道師の派遣を契機として、これまでの事業を見直しと新たな事業の立案により、地域活性化につながる付加価値の創出を今回目指した。 概要として、釧路町のスポーツを活用したまちづくりとして実施する新たな事業の創出・実施に向けて、スポーツでまちを元気に推進委員会が主催となった研修会を開催した。 地域活性化伝道師による講演を受けて、関係団体との意見交換をしながら、釧路町発祥のスポーツである『長ぐつアイスホッケー』を活用した、冬のイベント化に向けた企画検討を実施。また、地域活性化伝道師には、釧路町の現地調査と事前にスポーツ関係団体との意見交換をしていただき、地域の資源である、「豊かな自然環境(釧路湿原など)を活用したスポーツによる新規事業の企画」に向け、釧路町におけるスポーツ活用の方向性や、スポーツを活用した組織のあり方について、講演をいただいた。		
成果	全日本長ぐつアイスホッケー選手権大会を活用した冬のイベント化に向け、スポーツ関係団体を募ったグループワークを実施することで、様々な視点からのアイデアを出すことができた。また地域活性化伝道師から、スタッフの町外から募集や、対象者を世界まで広げること、長ぐつアイスホッケーの長期目標を検討していくことなどアドバイスいただき、今後のイベント化に向けた方向性を見出すことができた。スポーツを活用したまちづくりの考え方を改めて確認し、スポーツイベントによる社会的効果を主に捉えることの重要性について再確認し、釧路町の地域資源である「釧路湿原」「長ぐつアイスホッケー」などをどのように活用していくことができるのかを、参加者全員で課題共有することができた。		
課題	研修会(意見交換など)の対象者を広げたが、各団体がスポーツを活用したまちづくりについて考えを深め実施できるかが課題である。スポーツに関わる人を如何に数多く巻き込み、持続可能な組織と活動へと成長していけるかが求められる。その為の人材を、町民にとどまらず、ボランティアスタッフや、町外で活動に興味を持っている人など、幅広い視点で募集していく必要がある。 また、現状課題に対しての解決を事務局が中心となるのではなく、組織の構成員が課題を見つめ、解決策が得られるよう、組織のあり方を改変していく必要がある。スポーツコミッションとしての立ち位置で活動することができるかが、大きな課題であり、今後の可能性を広げるポイントである。		
今後の方針	研修会で得られた意見をもとに活動を計画し、実施していく。まずは、今年度の釧路町主催である全日本長ぐつアイスホッケー選手権大会を活用し、冬のイベント化に向けた取組を進める。その為に求められる組織のあり方を検討し、来年度からサステナブルな活動となるように準備を進める。 スタッフについては、学生スタッフの募集や、町外からのボランティアを募集するなど、今までは関係するスタッフのみで運営していた所に変化を加え、人材不足の課題解決を図る。 また、今回のようなスポーツ関係団体を対象とした研修会を定期的開催することで、「スポーツによるまちづくり」を考える機運を高める。それにより、構成員としての使命として浸透していきたい。		

実施報告書

地方公共団体名	室蘭市	派遣伝道師氏名	井上 俊彦
依頼内容	室蘭市は、第2期総合戦略のなかで、「まちの資源を活かし、新たな「ひと」の流れをつくる」ということを目標の一つに掲げている。 長年市民のソウルフードと親しまれている「室蘭やきとり」というのまちの資源を活かして交流人口の増加の取り組みを推進していくため、室蘭やきとり事業者と市や商工会議所・観光協会等が連携して、ブランド力向上に資する活動を検討している。 その活動の一つである「地域団体商標」の取得に向けて、地域活性化伝道師から「地域団体商標」取得に向けた具体的な活動についてと、取得後の商標を活用した地域ブランドづくりについてご助言をいただきたい。		
依頼に対する活動内容	井上俊彦地域活性化伝道師による講演「地域団体商標を活用した地域ブランドづくり」を令和6年11月7日(木)開催 室蘭やきとり事業者、市、商工会議所、観光協会等が参加 (講演内容) ・地域ブランドを守る、地域団体商標制度の概要 ・地域団体商標を取得するメリット ・地域団体商標を取得するための具体的な活動 ・権利取得後の活用方策 ・地域団体商標に関する支援策と取り組み		
成果	・地域団体商標の出願に向けて、参加者それぞれの立場での役割分担が明確になった。 ・上記出願に向けて、特に重要である周知性の証明方法について、参加者間で必要な取り組みを共有できたことで、今後の進め方に道筋ができた。		
課題	・出願から登録まで一定期間要することを踏まえ、スピード感を持って出願に向けた取り組みを進めていく必要がある。 ・デジタルを活用した周知活動を進めるためのウェブサイトの更新を含めた運用。		
今後の方針	・室蘭やきとり事業者と行政機関等が連携し、地域団体商標取得に向けて、月1回のペースを基本に取り組みを確認・推進していく。 ・地域ブランド向上のため、地域団体商標取得後の方策や商標以外の取り組みの検討を並行して進めていく。		